

NGO 相談員出張サービス実施報告書

3. 企画名：講演会 「メコン地域における人身売買・人身取引と NGO」
2. 実施者：特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン 松本謡子
3. 日時：平成 29 年 1 月 24 日（火）10:30-12:00
4. 場所：千葉大学 西千葉キャンパス 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33
5. 参加者：千葉大学法政経学部 2~4 年生 180 名、教諭 2 名
6. 実施報告：

NGO 相談員として、3 部構成（①人身取引の定義と現状、②人身取引における 4 つの誤解とアドボカシー、③意見交換、質疑応答）で授業を実施した。人身取引の定義と現状では配布資料として作成した「人身取引 現代の奴隷制を知ろう」や動画を活用し、議定書の定義や世界中に広がる現状、また、被害者の証言を通して深刻な人権侵害であることを紹介した。また、米 국무省から発表される「人身売買報告書」を元に日本の現状を紹介し、議定書未締結である課題等を提示した。さらに人身取引における 4 つの課題では、被害者は、女性と子どもだけなのか？性的搾取の問題が中心なのか？大きな犯罪組織が、いつも背後にあるのか？救出されたらそれで終了なのか？という点について、ワールド・ビジョン・ジャパンが 2016 年まで取り組んできた End Trafficking in Persons Program (ETIP) の実証に基づいて紹介した。問題解決のために取り組むアドボカシーの活動にも触れ、日本政府に対して行っている政策提言について紹介した。

意見交換では人身取引のない世界を作るために誰が何をすべきか、ワークシートを使用して意見を出し合い、「国家として人身取引を取り締まる規制を強化すべき」「国際社会全体が安価な労働力や商品に依存する傾向を見直すべき」「メディアで取り上げ、SNS を活用した情報の拡散が啓発や予防につながる」「企業が利益追求ばかりでなく人権を尊重すべき」等の声が挙げられた。

最後に質疑応答では国家を越えた枠組みでの対策について、日本が議定書未締結である原因について、人身取引課題が日本社会の中で知られていない原因について等の質問が寄せられた。

7. 所感：

授業後に「大変興味深かった」との感想が寄せられた。法律、政治、経済を学ぶ大学生の視点から人身取引の課題の現状に意見を寄せてもらうことができ、また「アジア政治」という科目の中でこの課題を盛り込んでもらうことに意義を感じた。学生からの鋭い視点や本質を突いた質問の数々に大変刺激を受け、勉強になった。また、担当教諭からの ASEAN に関する指摘にも、今後の活動に向けての貴重なヒントを得ることができた。

8. 別添（写真）授業の様子

